

カナミックネットワーク

「介護事業経営を効率化・標準化する方法は「IT化が効果的」と話すのは、クラウドサービスで

先行の開発は、かえって現場職員の負担を増やすと警告する。全体を俯瞰

援事業」の委託候補先として選定された。当社の介護向けシステムは、営業管理から記録・請求、業務改善分析までトータルソリューションを提供

全体を見渡した業務最適化ができると考えている。クラウドやロボット、AI、IoT、ビッグデータなどによる効率化が

これまで、利用者が現場職員の負担を減らしたいのなら、センサーと介護記録システムを連携させて、人手に頼らない仕組みを構築するべきだ。

もし、警告が届いた職員が電話をしたり駆け付けるなどの行動をとらなかつたら、介護事業所の責任になりかねない。最悪の場合、訴訟に発展する可能性もある。

他産業を見渡せば、IT化によって業務が飛躍的に効率化されている。好事例が小売業だ。POSレジの登場で、商品のバーコードをピッと読み取れば、代金計算から在庫管理まで瞬時に行い、お金を入れれば自動でつり銭まで出してくれる。高校生でも外国人でも誰でも同じように処理ができるようになった。

センサー技術先行モデルに危機感

全体見据えた効率化を

全国約1万5600事業所の医療・介護事業者を支えるカナミックネットワーク（渋谷区）の山本拓真社長。しかし、現場のニーズを無視した技術

できるコーディネーターの役割を果たしていきないう。

業所の効率化だけでなく、地域連携まで一気通貫でできる。医療介護連携を支える情報プラットフォームをクラウドで提供

さまざまな業界で成果をあげているが、医療・介護業界は遅れている。移動に各種センサーを取りつ

自宅の部屋で転んだら本人の責任だったが、部屋に各種センサーを取りつ

たとえば、複数のセンサーから得られるデータから状況を総合的に判断したり、データを自動で

一方、介護業界の情報伝達手段といえば、電話・郵送・FAXで昔から変わらない。今、FAXを使っている先進国は



山本社長

カナミックはこのほど、総務省が実施する「IoTサービス創出支

供する当社だからこそ、

定の部分を切り出して見

告が送られる可能性が

システムなどだ。

日本だけだ。（談）